

《地球環境に学ぶ》

環境問題の継続学習と学習成果の還元

塚本 二郎

当サークルは、ところざわ倶楽部発足時に 12 サークルの一つとしてスタートし、5年目を迎えています。

サークルの母体は市民大学 14 期 2 年次の「地球環境」グループ（講師は早大の太田俊二先生）で、17 期生も加わり現在 10 名で活動しています。

環境問題の継続学習で得た知識や経験を地域に生かし行動することが目的です。

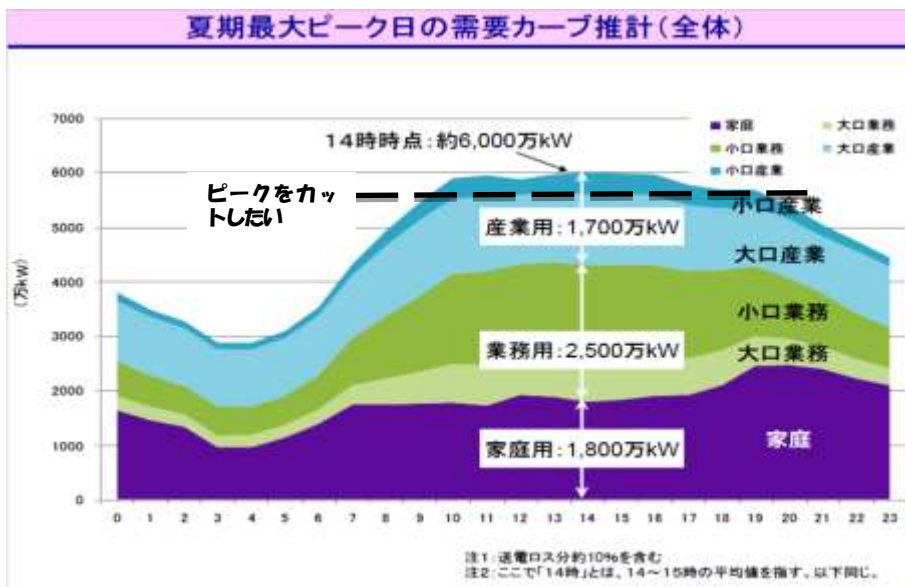
1 本年度活動の重点

- (1) 月 1 回の定例会での個人の研究発表の充実
- (2) 行政の環境政策への協力
 - ・エコライフデーに代わる節電対策等
- (3) バスによるエコ見学会の開催
 - ① 甲府市米倉山の東京電力最新のメガ太陽光発電所（1 万 k w）、都留市の小水力発電所
 - ② 古河市の積水ハウス・エコ住宅（洞爺湖サミットのものを移築）とゼロエミッションセンター
- (4) 映画会の協賛“第4の革命”（ドイツ）

なお、(3)及び(4)項は計画中です。内容・日程が決まり次第お知らせします。

2 昨年 3 月 11 日、東日本大震災・原発事故から地球環境問題で変わった点

事故前は地球環境問題といえば温暖化対策としての CO₂ 削減が中心で、再生可能エネルギー（太陽光、風力、水力、地熱、バイオガス等）の必要性は叫ばれていたものの、国民的な議論になり得なかったのは事実でした。事故後はエネルギー政策問題に多くの国民の関心が集まり、幅広く議論されるのは大きく変わった点だと思います。CO₂ を排出し続け、いつかは枯渇する化石燃料に頼る事なく、太陽エネルギーを中心とした自然エネルギーを 100%活用できる世界にもっていかれるかどうか人類の最大の課題でしょう。それまでは 70 億の人間がエネルギーを出来るだけ公平で大切に使用するしかありません。



3 今夏の節電対策重点ポイント

上記のグラフは昨年5月に資源エネルギー庁で作成した東京電力の「夏期最大ピーク日の需要カーブ推計」で広く使われたものです。当然ながら、発電能力は需要量を上回ってなければなりません。ただ真夏であっても毎日がピークでなく、特に気温が高く需要が多い日のみをピークカットすれば発電設備の増強は必要なくなりません。ピークカットの方法は大口需要に制限が出るかも知れませんが、家庭用（主に空調用—エアコ

ン）も各戸での抑制努力は必要でしょう。ここで、昨年7月の「広場」で提案した「究極の節電策——アンペアダウン」に挑戦されては如何でしょうか。電力会社の「電気ご使用量のお知らせ」に、ご契約〇〇Aと出ていますので、このアンペア数を10でも20でも下げられるかを検討してみてください。特にエアコンを複数台同時使用すると合計アンペア数はすぐ跳ね上がります。工事は無料で、お知らせの中に電話番号が記載されていますので依頼してください。